

## C 羊水検査に関する経験

質問開始冒頭に「妊娠中期に行われる検査で、お腹から子宮に針を刺して羊水をとり、羊水の成分や羊水中の胎児の細胞を調べるための検査です」と検査についての説明をしています。

## 羊水検査1 医療施設に行く前に得ていた情報

「その妊娠で医療施設へ行く前に、羊水検査について何か情報を得ていましたか。」という質問に「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、回答のあった142名のうち、「はい」が63名(44.4%)、「いいえ」が79名(55.6%)で、事前に羊水検査についての情報を得ていなかった人がやや多かった。

保育園調査では、回答のあった353名のうち、「はい」が161名(45.6%)、「いいえ」が192名(54.4%)で、事前に羊水検査についての情報を得ていなかった人がやや多かった。

羊水検査について事前に情報を得ていたと回答した割合は、母体血清マーカー検査について事前に情報を得ていたと回答した割合よりも高かった。

図C-1 医療機関 羊水検査の事前情報入手



n=142、ただし、無回答14を除く

図C-1 保育園 羊水検査の事前情報入手



n=353、ただし、無回答25を除く

## 羊水検査1 事前に得ていた情報 ①具体的内容

医療施設へ行く前に、羊水検査について情報を得ていたと回答した人に、「どのような情報や内容を得られましたか」と尋ね、記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では「事前の情報を得ていた」と答えた63名のうち42名が、保育園調査では「事前の情報を得ていた」と答えた161名のうち127名がその内容を記述していた。その内容を、「検査でわかること」「検査の方法や精度等についての評価」「副作用」「その他」等に分類して検討した。
- 医療機関調査では、「検査でわかること」について最も多く言及されており、「染色体異常があるかないか」「胎児の異常を調べる」など「染色体異常」「胎児の異常」といった言葉が書かれており、具体的な障がい名には「ダウン症」が挙げられていた。また、副作用について言及した回答には、「危険性」「赤ちゃんにリスクがある」という抽象的なものから「まれに流産の危険もある」と具体的に記述したものであった。その他、「確定診断である」など精度の高い検査であることを述べた回答もあった。ほかに、「35歳以上の妊娠に染色体異常の児が生まれる可能性が高いため調べる検査」と妊娠年齢に言及した回答や、費用について書かれたものもみられた。
- 保育園調査では、医療機関調査と同様に「検査でわかること」について、「染色体異常」「胎児の異常」とともに「ダウン症」という言葉も多く挙げられていた。また、副作用についても、「危険性」「リスク」という言葉が多く使われ、「流産の可能性がある」「流産の確率が上がる」など流産についても言及されていた。「確定診断」など精度に関わることや、「35歳以上の方はやった方がよい」など年齢への記述があるのも医療機関調査と同じであった。「クアトロテストの次に行く」のようにスクリーニング検査の後に行くこと、「倫理上の問題」と書かれた回答などは、医療機関調査には、見られなかった。

## 羊水検査1 事前に得ていた情報 ②入手源

医療施設へ行く前に、羊水検査について情報を得ていたと回答した人に、(情報や内容を得られたのは)「それは誰からですか」と尋ね、記述式で回答してもらった。

- 医療機関調査では「事前の情報を得ていた」と答えた63名のうち27名が、保育園調査では「事前の情報を得ていた」と答えた161名のうち66名がその内容を記述していた。
- 記述の内容は、「知人・友人」「家族・親族」などのほかに「医療者(医師、病院で)」「自分で調べた」「本人が医療職のため、教育を受けた」などの回答があった。
- 医療機関では、「知人・友人」が最も多く、「医療者(医師、病院で)」に関連したものが続いた。中には誰からではなく、「前の妊娠時に病院で」など、情報を得た場所が書かれたものもあった。
- 保育園調査でも同様の傾向があり、「知人・友人」が多かったが、「医療者(医師、病院で)」と並んで「家族・親族」に関連した記述があった。「夫」という回答も少数あった。「自分で」という回答もあった。中には「看護学校」のように場所を記述したものもあった。

## 羊水検査1 事前に得ていた情報 ③情報源

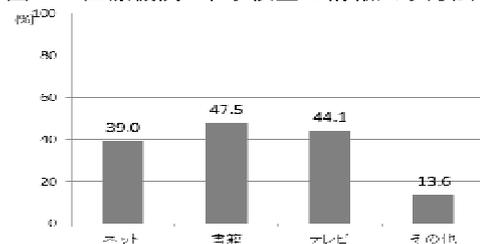
医療施設に行く前に、羊水検査について情報を得ていたと回答した人に、何から得たかを「インターネット」「雑誌・書籍」「テレビ」「その他(具体的に )」の選択肢から複数回答で尋ねた。

医療機関調査では、羊水検査について事前に情報を得ていたと回答した63名のうち、無回答を除く59名から85件の回答があった。「雑誌・書籍」28件(47.5%)、「テレビ」26件(44.1%)、「インターネット」24件(39.0%)、「その他」は8件(13.6%)であった。

保育園調査では、羊水検査について事前に情報を得ていたと回答した161名のうち、無回答の14名を除く147名から221件の回答があった。「雑誌・書籍」90件(61.2%)、「インターネット」71件(48.3%)、「テレビ」38件(25.9%)、「その他」は22件(15.0%)であった。

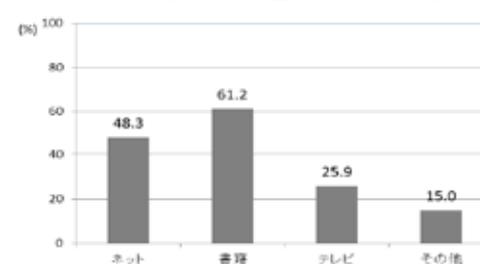
医療機関調査で「テレビ」の割合が多かったのは、調査時点で妊娠中の人が多く、その時期に新型出生前検査の報道等が多かったためと推察される。

図C-2 医療機関 羊水検査の情報入手方法



n=59(85件)、ただし事前に得ていたと回答した63のうち、無回答4を除く

図C-2 保育園 羊水検査の情報入手方法



n=147(221件)、ただし事前に得ていたと回答した161のうち、無回答の14を除く

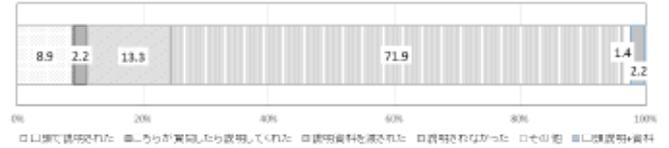
## 羊水検査2 医療者からの説明【医療機関】

「医療者から羊水検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか」という質問に対し、「口頭で説明された」「こちらから質問したら説明してくれた」「説明資料を渡された」「説明されなかった」「その他」の中から1つを選択してもらった。

医療機関調査では、記入のあった135名のうち、「説明されなかった」が97名(71.9%)と最も多く、次に「説明資料を渡された」が18名(13.3%)、「口頭で説明された」が12名(8.9%)あった。「こちらが質問したら説明してくれた」「その他」が少数あった。また、「口頭で説明」と「説明資料を渡された」の両方を選択した人も複数いた。

説明された人の内訳が異なるのは、説明にいたる医療機関の方針(事前に資料を渡して質問を受けるなど)が影響していると考えられる。また、助産所が含まれていることの影響もあると推測される。

図C-3 医療機関 羊水検査の医療者からの説明



n=135、ただし、無回答21を除く

## 羊水検査2 医療者からの説明【保育園】

「医療者から羊水検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか」という質問に対し、「口頭で説明された」「こちらから質問したら説明してくれた」「説明資料を渡された」「説明されなかった」「その他」の中から1つを選択してもらった。

保育園調査では、記入のあった333名のうち、「説明されなかった」が212名(63.7%)と最も多く、次に「口頭で説明された」が65名(19.5%)、「説明資料を渡された」が23名(6.9%)、「こちらが質問したら説明してくれた」が14名(4.2%)あった。また、「口頭で説明」と「説明資料を渡された」の両方を選択したのが12名(3.6%)いた。「その他」は7名(1.8%)であった。

口頭で説明されたという割合が高かったのは、妊娠時の年齢の影響が考えられる。

図C-3 保育園 羊水検査の医療者からの説明



n=333、ただし、無回答45を除く

## 羊水検査2 医療者からの説明 ①具体的内容【医療機関】

医療者から羊水検査の目的、方法、リスクなどについて、口頭や資料なども含め、何らかの説明を受けたと回答した人に、「それはどのような内容でしたか」と尋ねた。

- 医療機関調査では24名が説明の内容について記述していた。
- 医療機関調査では、流産のリスクについて説明された人が多かった。その一方で検査を受けるかどうかについて、妊婦の目を通してではあるが、医師の妊婦への関わり方がわかる内容も記述されていた。「15weeks以降するかしないかは夫婦で決めて下さい。と言われました」という事例のように医師ではなく、夫婦が決めることを説明した内容。「高令だし、胎児発育が悪いので受けた方がよい」と医師が受けることを勧めた内容などである。
- 他方で「何の目的ですか、結果で命の選別を行うようなことができるのか、考えるよう言われた」と慎重に決めるように促した内容など、医師のこの検査に対する姿勢がうかがえる記述がいくつかあった。
- 他に、「先天異常に関する検査」など検査の目的についての内容や、「カウンセリングが必要」など検査の流れについても書かれていた。

## 羊水検査2 医療者からの説明 ①具体的内容【保育園】

医療者から羊水検査の目的、方法、リスクなどについて、口頭や資料なども含め、何らかの説明を受けたと回答した人に、「それはどのような内容でしたか」と尋ねた。

- 保育園調査では75名が説明の内容について記述していた。
- 保育園調査でも、流産のリスクについての説明が多数だったが、胎児の障がいを知るためのもの、など検査の目的について書いている人も多くいた。妊婦の目を通してではあるが、医師の妊婦への関わり方がわかる内容も、医療機関調査と同様に記述されていた。「先天性異常があった場合、出産前にみつける事が出来、産む産まないの選択が出来ること」「ダウン症の子供を望まないのであれば受けた方がいいとすすめられた」など、医師が検査を受けることを婉曲的に勧めていたという記述がある一方で、「羊水検査というものがあるが、受けなくてよい、というような内容」「リスク高いからやめておいた方がよい」など医師が検査を勧めなかったという記述もあった。
- 出産してから時間が経っている人が一定程度いたためか、「覚えていない」など記憶があいまいになっている人たちも複数いた。

## 羊水検査2 医療者からの説明 ②評価とその理由

医療者から羊水検査の目的、方法、リスクなどについて、口頭や資料なども含め、何らかの説明を受けたと回答した人に、「その説明に満足しましたか」と尋ね、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、説明を受けたと回答した36名のうち、無回答の6名を除く30名の回答があった。「はい」(満足)が24名(80.0%)と多く、「いいえ」は5名(16.7%)だった。「わからない」がわずかにあった。

保育園調査では、説明を受けたと回答した104名のうち、無回答の26名を除く78名の回答があった。「はい」(満足)が72名(92.3%)と多く、「いいえ」は6名(7.7%)であった。

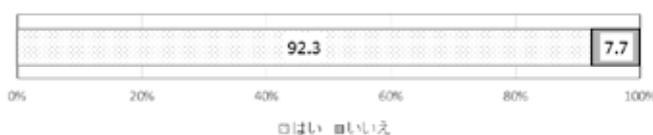
医療機関調査と保育園調査ともに、母体血清マーカー検査と同じく、説明を受けた人の多くはその説明に満足したという結果になった。医療機関調査のほうが満足しなかったという回答の割合が高くなっているが、この理由については今後検討していく。

図C-4 医療機関 羊水検査 医療者からの説明に満足



n=30、ただし医療者からの説明ありと回答した36のうち、無回答6を除く

図C-4 保育園 羊水検査 医療者からの説明に満足



n=78、ただし医療者からの説明ありと回答した104のうち、無回答26を除く

## 羊水検査2 医療者からの説明 ②評価とその理由 医療者からの説明に満足した／不満だった理由 具体的内容

「その説明に満足しましたか」との質問に答えた人に、その理由を記述で回答してもらった。

- 説明に満足した理由として、「わかりやすかった記憶がある」や「細く説明してくれたので」等の説明の詳しさやわかりやすさ、「その検査で陰性でも、他の病気・障がいのリスクもあるとも言われ、しないことに納得できた」など検査の限界に言及されていたことなどの「説明の質」をあげた回答、「自分でさらに真剣に考えるようになった」「判断に必要な情報があったから」というような「説明が判断につながったこと」をあげた回答、そして「医師の説明にはあまり期待しなかった」「特に重要視していなかったから」というような、医師の説明や検査を受けることに期待しないことをあげた回答があった。その他に「メンタルな部分は別室で助産師さんが説明してくれたから」「希望時にはきちんと説明して下さるといのが、わかったので」など説明を受ける際の環境的な配慮や信頼感を挙げた人もいた。
- 説明に満足しなかった理由として、検査についての説明はあったが「リスクの説明がなかった」「簡単な説明だった」「内容が不十分」など説明の詳しさに関わること、「検査を受けて異常を知ってどうするの？と淡々と聞かれて、とてもイヤな気持ちになった」など心理的に不快感を感じたことなどが書かれていた。

## 羊水検査3 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

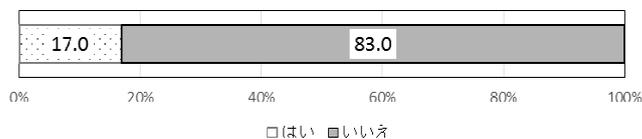
「羊水検査を受けるかどうか、医療者からたずねられましたか。」という質問に対し、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、回答のあった141名のうち「はい」は24名(17.0%)、「いいえ」が117名(83.0%)であった。

保育園調査では、回答のあった343名のうち、「はい」は70名(20.4%)、「いいえ」が273名(79.6%)であった。

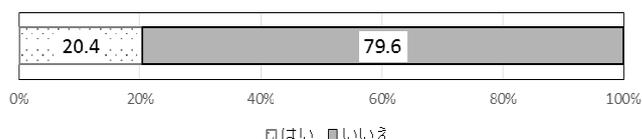
医療機関調査と保育園調査ともに、母体血清マーカー検査と同じく、羊水検査を受けるかどうか、医療者から尋ねられなかったと答えた人が多い。

図C-5 医療機関 羊水検査について医療者からの質問



n=141、ただし、無回答15を除く

図C-5 保育園 羊水検査について医療者からの質問



n=343、ただし、無回答35を除く

## 羊水検査3 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問 ①時期

羊水検査を受けるかどうか、医療者から「尋ねられた」と回答した人に、「それはいつ頃のことですか。」と時期を尋ねた。「初診時」「妊娠が確定したとき」「超音波検査でさらに検査が必要だと言われたとき」「その他」の4つの選択肢から選び、妊娠何週頃かについても尋ねた。

- 医療機関調査では尋ねられたと回答した24名全員の回答があった。「妊娠が確定したとき」が13名(54.2%)と最も多く、続いて「初診時」は9名(37.5%)、「超音波検査でさらに検査が必要だと言われたとき」が若干名、「その他」が若干名であった。検査について尋ねられた時期は、18名の回答があり、範囲は5～15週であった。
- 保育園調査では、尋ねられたと回答した70名のうち、無回答の20名を除く50名の回答があった。「妊娠が確定したとき」が24名(48.0%)と最も多く、続いて「初診時」は7名(14.0%)だった。「超音波検査でさらに検査が必要だと言われたとき」が数名だった。また、「その他」が15名(30.0%)であった。検査について尋ねられた時期は、24名の回答があり、うち22名が具体的な妊娠週数を回答しており、範囲は5～15週であった。
- なお、「その他」の記述の内容としては、医療機関調査、保育園調査ともに「覚えていない」または「わからない」と、「妊娠初期」などの回答があった。
- 医療機関調査と保育園調査ともに、妊娠が確定したときに検査を受けるかどうか尋ねられた人が多く、母体血清マーカーと同様の結果となった。

## 羊水検査4 検査を受けましたか

「羊水検査を受けましたか」という質問に、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、回答のあった142名のうち、「はい」は4名(2.8%)、「いいえ」が138名(97.2%)であった。

保育園調査では、記入のあった346名のうち、「はい」は24名(6.9%)、「いいえ」が322名(93.1%)であった。

羊水検査は医療機関調査、保育園調査ともに母体血清マーカー検査を受けた人よりも少なかった。

※検査を受けたか否かについての結果は、少数であってもこの調査には必要であると判断して、4名以下の場合も示した。

図C-6 医療機関 羊水検査 受検の有無



図C-6 保育園 羊水検査 受検の有無



## 羊水検査5 受けた/受けなかった理由【医療機関】

「羊水検査を受けた理由、または受けなかった理由を教えてください」と記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では113名の記述があった。そのうち、羊水検査を受けたと回答した人は4名、受けなかったと回答した人は109名だった。
- 羊水検査を受けた理由としては、「クワトロテストで陽性だった」、「心配だったから」「妊娠期間を安心もしくは準備をして心の整理をつけておきたかった」などがあげられる。検査による流産や、胎児の障がいがあった後の中絶を「受け止められる」と記述した人もいた。
- 羊水検査を受けなかった人の理由としては「必要と思わなかった」が多かったが、流産の可能性、どちらにしても産むから必要ない、と記入した人も多かった。その他に、医師が検査について何も言わなかった/勧められなかった、という回答も少なからずあった。
- 「必要と思わなかった」と考える根拠として、医師が何も言わなかったことを挙げる人もおり(「医療者から説明がなかったため必要ないと思った」など)、必要ないという判断に対する医師の影響も大きいと思われる。
- その他に「クワトロテストで異常がなかった」、「超音波で問題がなかった」などスクリーニング検査の結果を挙げる人、「高齢でない」など年齢に言及する人もいた。他には検査について「知らなかった」、「結果を知って不安になりたくない」、「費用が高い」などの理由も複数挙がっていた。

※検査を受けたか否かについての結果は、少数であってもこの調査には必要であると判断して、4名以下の場合も示した。

## 羊水検査5 受けた/受けなかった理由【保育園】

「羊水検査を受けた理由または受けなかった理由を教えてください」と記述で回答してもらった。

- 保育園調査では286名が記述していた。そのうち羊水検査を受けたと回答した人は19名、受けなかったと回答した人は267名であった。
- 羊水検査を受けた理由としては、「高齢妊娠だから」など、年齢に関わる記述が多かったが、障がいをもった子どもを出産した経験があったり、病気を持っていることがわかっている胎児に他の病気がないか調べるための受検、その他NT検査でリスクが高いという結果が出た人も複数いた。
- 検査を受けない理由としては、医療機関調査と同様に「必要と思わなかった」が多く、その根拠としてクアトロテストを含む母体血清マーカー検査、NTを含む超音波検査で異常が指摘されなかったことを記述した人たちがいた。検査について医師から説明されなかったために、「自分には必要ない」と解釈して記入していた人が複数いた。これは医療機関調査の結果と同様である。
- 検査による流産の危険性があるために受けなかったという理由も多くみられた。また「受けて、結果が悪かった場合、どうすればいいかわからなくなってしまうため」など、中絶を安易に選択したくないという気持ちが垣間みられた。検査について「知らなかった」と書いた人たちも複数いたが、「知らない。病院からは必要な情報しか与えられなかったの、それ以外はできる限り気にしない様にしていた。知れば知る程色々な不安がつのるため」と中には知らなかったことを肯定的に捉えた記述もあった。

## 羊水検査6 受けるか受けないかを誰が決めたか【医療機関】

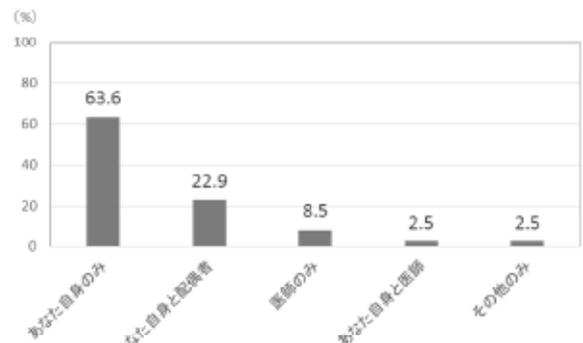
「羊水検査を受けるか、受けないかを誰が決めましたか」と尋ね、「あなた自身」「配偶者」「医師」「その他(具体的に )」の4つの選択肢で、あてはまるものすべてに選択してもらった。

回答の組み合わせをみると、医療機関調査では、回答のあった118名のうち、75名(63.6%)が「あなた自身」のみで決めたと回答し、続いて「あなた自身」と「配偶者」が27名(22.9%)、「医師」のみが10名(8.5%)、「あなた自身」と「医師」の両方を選択した人が若干名、「その他」のみが若干名であった。

母体血清マーカー検査と同様、「あなた自身」が決めたという回答が最も多かった。

ただし、この質問に対しては、無回答が多かった。検査を受けた人たちは全員誰が決めたかを回答していたが、検査を受けなかった人の中には、受けるか否かの判断をする機会がなかった人も含まれるため、無回答が多くなったと考えられる。

図C-7 医療機関 羊水検査 誰が決めたか



n=118、ただし、無回答38をのぞく

## 羊水検査6 受けるか受けないかを誰が決めたか【保育園】

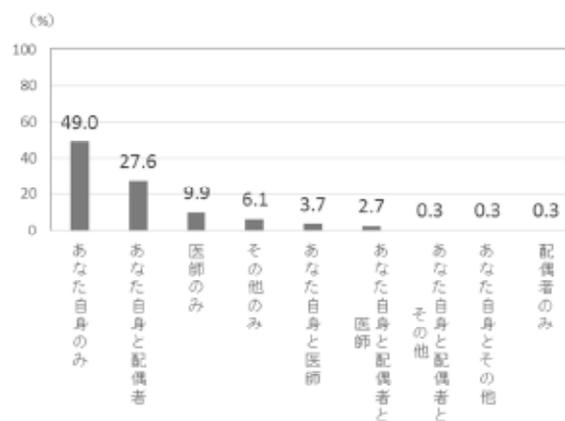
「羊水検査を受けるか、受けないかを誰が決めましたか」と尋ね、「あなた自身」「配偶者」「医師」「その他(具体的に )」の4つの選択肢で、あてはまるものすべてに選択してもらった。

回答の組み合わせをみると、保育園調査では、回答のあった294名のうち、144名(49.0%)が「あなた自身」のみで決めたと回答し、続いて「あなた自身」と「配偶者」が81名(27.6%)、「医師」のみが29名(9.9%)、「あなた自身」と「医師」が11名(3.7%)、「あなた自身」と「配偶者」と「医師」が8名(2.7%)であった。「あなた自身」と「配偶者」と「その他」、「あなた自身」と「その他」、「配偶者」のみがわずかずつあった。「その他」のみは18名(6.1%)であった。

母体血清マーカー検査と同様、「あなた自身」が決めたという回答が最も多かった。

ただし、この質問に対しては、無回答が多かった。検査を受けた人たちは全員誰が決めたかを回答していたが、検査を受けなかった人の中には、受けるか否かの判断をする機会がなかった人も含まれるため、無回答が多くなったと考えられる。

図C-7 保育園 羊水検査 誰が決めたか



n=294、ただし、無回答84をのぞく

## 羊水検査7 検査による異常の発見

「羊水検査によって何らかの異常が発見されましたか」と尋ね、「はい」「いいえ」「その他(具体的に )」の3つの選択肢から回答してもらった。

- 異常が発見された場合は、さらに付問①「結果を聞いたのは妊娠何週ごろですか」、②「結果は誰と聞きましたか」(具体的に もしくは、「ひとりで」を選択)、③「そのときにどのように感じましたか」、④「その後どうされましたか」、⑤結果を誰に知らせましたか(選択肢)を回答してもらった。
- 医療機関調査では、羊水検査を受けた4名全員が、異常の発見について「いいえ」(異常の発見なし)と答えた。
- 保育園調査では、羊水検査を受けた人は24名であり、すべての人が、異常の発見について「いいえ」(異常の発見なし)と答えていた。
- そのため、付問①～⑤はすべて非該当となる。

## 羊水検査8 検査についての気持ちや考え【医療機関】

(回答者全員に対して)「羊水検査についてあなたのお気持ちやお考えを聞かせてください」と尋ね、記述で回答してもらった。

- 医療機関では83名の記述があった。記述には、羊水検査に対して積極的・肯定的な評価と消極的・否定的な評価があったが、その両方を書いている人もいた。ここからも、この検査に対する気持ちや考えの複雑さが垣間みられた。積極的・肯定的な評価としては「検査によって事前に病気等が分かればありがたい」、「やはり自分には障がい児を育てる自信がないので」などがあった。「受けた人が受ければいい」といった、個人の選択であることを強調する記述もあった。
- 消極的・否定的な評価は実に多様であった。最も多く言及されていたのは「事前に赤ちゃんの状態を知っておろすかおろさないかを選択する為の検査なら必要ないと思う」など、中絶を前提とする検査への抵抗感であった。この他、「リスクをおかしてまで受ける程心配ではなかった」など副作用である流産に対する否定的な記述も多くみられた。「リスクがある妊娠なら考えたかもしれない」といった消極的だが条件付で検査を受け入れる可能性を示した記述もあった。
- 他には、費用、穿刺への恐怖、「検査の結果何か異常が見つかるのがこわい」「医師の説明は検査の方法や結果のみで、その結果を背負って生きていく人生は視野にない様と感じた」など検査結果とその後の選択についての不安なども記述されていた。

## 羊水検査8 検査についての気持ちや考え【保育園】

(回答者全員に対して)「羊水検査についてあなたのお気持ちやお考えを聞かせてください」という質問し、記述で回答を求めた。

- 保育園調査では226名の記述があった。医療機関と同様に記述には、積極的・肯定的な評価と消極的・否定的な評価が含まれ、一人がその両方を書いている人もいた。また、「難しい問題だと思う。個々それぞれの考え方で行えば良い。推奨もしないし否定もしない」など、個人の選択に任されるべきだという内容も多くあった。
- 検査で胎児の障がいを知ることに對しては肯定的に評価する人々も少なくなかった。その中では検査の結果、中絶を視野に入れている人たちもいた。検査を「心の準備」として評価する記述もあった。「高齢なら」「心配なことがあれば」「医師から必要とされたら」など特定の条件を挙げた上で「受けてもよい」「受けるかもしれない」と記述した人も複数いた。
- 消極的・否定的な評価の内容も医療機関と同様の傾向がみられたが、「100%確かとは言えない」など母体血清マーカー検査と混同しているとみられる人々もいた。胎児の障がいの有無によって中絶を考えることに対する忌避感や抵抗感が示される一方で、「異常が見つかって、どうするのか決められない」など結果を受け止めることに対する困難や、「自分が妊娠していた時は該当しないと思っていたので深くは考えていなかったが、もし受けるかどうかを自分で判断できるとなると、正直迷うと思う」といった記述もあった。